

Life-changing Learnings

人生を変えた、学びの記憶。

高向陽菜

13期生 平成27年度卒 島根県立大学看護学部卒

山村留学先だった島根県の大学を進学先を選択。現在は城東保健相談所で保健士として勤務。受験期間の経験をもとに、あたたかな支援を行う保健士を目指している。



「ひとりじゃない」
科技校での記憶が、
人を支える原動力。

卓球に明け暮れた科技校時代。

科学技术高校時代は卓球部（当時たった一人の女子部員でした）で、平日も休日も練習漬けの青春を送りました。最後の試合でベスト8に勝ち残り、有終の美を飾ることができたときに味わった達成感は、今もはっきり覚えています。

受験の最中に学んだのは、
「人を支える人」のこと。

中学校時代を島根県太田市（山村留学）で過ごしたため「愛着のある島根で大学生活を送ろう」と決めていました。進学先に選んだのは、東京から遠く離れた島根県立大。進路の相談も、授業外での受験科目の勉強も多くの先生方が親身になって指導してくれました。数え切れない不安や焦りと戦う中でも、「自分はひとりではない」と思えたこと、「もう少しだけ頑張ろう」と思えた経験は、保健士として働く今も私を支える原動力となっています。

誰かの不安にそっと寄り添う
保健士を目指して。

現在は、保健士として江東区健康部城東保健相談所に勤務し、母子保健や難病・精神疾患を抱えた方の保健指導を担当しています。たくさんのご家庭を訪問したり保健所で相談を受けたりと忙しい日々を送っていますが、とても充実した日々を送っています。